



発行
米原市伊吹老ク連
編集
米原市伊吹老ク連
広報委員会
米原市伊吹老ク連事務局
TEL (0749) 58-1634

伊吹老クの活動を引き継いで！



伊吹老ク連 会長 嶋田 正昭

今年も伊吹の大地に四季は巡りて既に初夏、風になびく稲の緑に自然界と人の営みの素晴らしさを感じます。

老人クラブ会員の皆様ならびにシニア世代の皆様方には、益々ご健勝で日々お過ごしのことと存じます。

この度、伊吹老ク連の役員改選で会長への御推挙を受け、先輩方の歩みと親友の遺志を引き継ぐ思いで、不肖ながら大役をお受けすることになりました。

各地域で老人クラブの解散や脱退が相次ぎ、会員数や加入者の減少に戸惑いを感じながらも、高齢化と人口減少による地域の活力衰退を思うとき、老人クラブの社会的な役割りと必要性を再認識し、「社会活動は如何にあるべきか！」悩める地域の課題を捉えて、微力な中に役目の重さを痛感しております。

この度、突如襲った人類の敵コロナウイルスによる社会変動は、昭和・平成・令和と歩んで来ました私ども高齢者にとっては、今後の生活や地域活動への影響

が憂慮され、長寿社会に荒波が押し寄せ極めて厳しい局面にありますが、時代の流れに沿いつつ次に引き継ぐ思いを持って、老ク連運営に努めたいと思っております。

今年度の伊吹老ク連事業は、難局面のコロナウイルス感染予防を基本に、各老人クラブの御協力のもと社会の動向を見極めながら、弾力的に各種の事業計画を進めたいと思っておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

さて昨今、余暇の時間が多くなり、書棚に長らく眠っていた「伊吹町史(平成四年発行)」を取り出して、忘れられた地域の歴史や風俗を紐解き過ぎていますが、人々の秩序ある日常の営みや地域の慣習に思いを馳せ、風景や人物・地名などに我が身を重ねて、人の流れと自然・故郷への郷愁を感じています。

伊吹の春夏秋冬・霊峰伊吹山の雄大な姿を仰ぎ、神・仏を崇拝して大地に生きた先人達の継続の力は、老人クラブの相互親睦や奉仕活

動等で繋がりをもち、終の棲家で穏やかな老後の生活を営みながら、伊吹地域の将来発展を願って来られました。

時代経過とともに高齢者の生活は多様化し、現状のITやAI社会の加速に追いつけず、人と人・世代間の繋がりが希薄な格差社会に流され、人の気心や行動範囲が不透明な社会構造の中に存在しています。

改めてですが、老人クラブの団体は人の繋がりを大切にし、互いが気楽に集い活動して、地域に根ざした慣習や社会奉仕等で共助し合うことが、真の組織の目的であります。

我々、シニア世代が長寿社会を生き抜くためには、今少し世代間の融合を図りながら、各々が地域社会に目を向けた判断や行動力を持つ、時代感覚が必要だと思っております。

併せて、各自が健康寿命に気をつけていただく中で、地域活動の団体「老人クラブ会員」への加入を思慮いただき、今一度御協力をお願いいたします。

組織表

(敬称略)

令和二年度伊吹老人クラブ連合会組織・事業計画

| 役 職 | | 氏 名 | | 役 職 | 氏 名 |
|------------------|-------------|-----------|------------------|---------------|---------|
| 会 長 | | 嶋 田 正 昭 | 福 社 部 会 | 部 会 長 常任理事 | 伊 藤 一 司 |
| 副 会 長 | | 上 津 和 雄 | | 副 部 会 長 | 石 河 勝 美 |
| ” | | 川 瀬 四 郎 | | 部 会 員 単老ク | 女 性 代 表 |
| 監 事 | | 柏 吉 治 | | ” | 友 愛 担 当 |
| ” | | 児 玉 晃 一 | 保 体 部 会 | 部 会 長 常任理事 | 石 河 勝 美 |
| 顧 問 | | 松 井 重 廣 | | 副 部 会 長 | 伊 藤 一 司 |
| ” | | 久 保 稔 江 | | 部 会 員 大久保老ク | 柏 吉 治 |
| 企 画 部 会 | 部 会 長 | 上 津 和 雄 | | ” 伊 吹老ク | 中 村 隆 法 |
| | 副 部 会 長 | 川 瀬 四 郎 | | ” 上 野老ク | 高 橋 太 平 |
| | 部 会 員 常任理事 | 石 河 勝 美 | | ” 高 番老ク | 大 森 國 昭 |
| | ” | 伊 夫 伎 博 夫 | | ” 杉 澤老ク | 草 野 豊 幸 |
| | ” | 木 原 行 裕 | | ” 村 木老ク | 田 中 敬 吉 |
| | ” | 伊 藤 一 司 | | ” 大 清 水 老 ク | 児 玉 晃 一 |
| 研 修 部 会 | ” | 嶋 田 正 昭 | | ” 藤 川 老 ク | 大 石 俊 一 |
| | 部 会 長 常任理事 | 木 原 行 裕 | 広 報 委 員 | 委 員 長 副 会 長 | 川 瀬 四 郎 |
| | 副 部 会 長 | 伊 夫 伎 博 夫 | | 副 委 員 長 副 会 長 | 上 津 和 雄 |
| | 部 会 員 上板並老ク | 室 谷 貞 藏 | | 委 員 常任理事 | 全 員 |
| ” 春 照老ク | 大 野 龍 天 | 創 造 推 進 員 | | 高 橋 兵 太 | |

単位老ク役員・会員数一覧表

(敬称略)

| 単ク名 | 会 長 | 副会長 | 女性代表 | 友愛担当 | 会 員 数 | | |
|-------|---------|-----------|-----------|-----------|-------|-----|-----|
| | | | | | 男 | 女 | 計 |
| 上板並 | 室 谷 貞 藏 | 古 田 澄 雄 | 室 谷 さ き ゑ | 室 谷 八 重 乃 | 14 | 17 | 31 |
| 大久保 | 柏 吉 治 | 林 和 夫 | 松 井 貞 子 | 松 井 京 子 | 24 | 27 | 51 |
| 伊 吹 | 中 村 隆 法 | 膽 吹 邦 一 | 伊 富 貴 節 子 | 大 留 美 智 子 | 60 | 72 | 132 |
| 上 野 | 高 橋 太 平 | 堀 江 仁 | 高 橋 定 以 子 | 松 井 美 智 子 | 84 | 108 | 192 |
| 春 照 | 大 野 龍 天 | 伊 藤 一 司 | 三 原 君 子 | 福 永 映 子 | 55 | 74 | 129 |
| 高 番 | 大 森 國 昭 | 藤 田 佐 知 夫 | 北 川 敏 子 | 藤 田 美 津 代 | 26 | 33 | 59 |
| 杉 澤 | 草 野 豊 幸 | 宮 崎 義 文 | 武 田 八 重 子 | 北 川 昭 子 | 37 | 49 | 86 |
| 村 木 | 田 中 敬 吉 | 中 西 均 | 西 村 節 子 | 西 村 美 也 子 | 30 | 38 | 68 |
| 大 清 水 | 児 玉 晃 一 | 児 玉 房 嗣 | 児 玉 恭 子 | 丸 岡 多 津 江 | 19 | 13 | 32 |
| 藤 川 | 大 石 俊 一 | 高 木 信 竹 | 高 木 す が え | 仲 谷 と み 子 | 24 | 38 | 62 |
| 計 | — | — | — | — | 373 | 469 | 842 |

事業実施計画

| 月 | 日 | 曜 | 行 事 内 容 等 | 場 所 | 変 更 内 容 | 月 | 日 | 曜 | 行 事 内 容 等 | 場 所 |
|---|----|---|----------------|-----------|------------------|----|----|---|----------------|-----------|
| 4 | 9 | 木 | A 企画部会 | 愛らんど | | 11 | 10 | 火 | A 秋季 GG 大会 | 第10・県立運動場 |
| | 9 | 木 | 広報部会(編集) | ” | | | 11 | 水 | ” (予備日) | ” |
| | 16 | 木 | A 理事会 | ” | | | 26 | 木 | A 企画部会 | 愛らんど |
| | 17 | 金 | AP 市町老ク連担当者会議 | 県老ク連(草津市) | 延期 | | 26 | 木 | A 広報委員会(編集) | ” |
| | 20 | 月 | P 市老ク連第一回理事会 | 近江やすらぎハウス | | | 27 | 金 | 第59回滋賀県老人クラブ大会 | 県米原文産会館 |
| 5 | 21 | 木 | A 保体部会 初夏競技説明会 | 愛らんど | 市スポーツ大会 出場抽選会 | 12 | 9 | 水 | A 友愛情報交換会・研修会 | 愛らんど |
| | 29 | 金 | A 広報委員会(割付) | ” | | | 9 | 火 | A 保体部会(競技説明会) | ” |
| 6 | 4 | 木 | AP 初夏複合スポーツ大会 | 第1グラウンド | 中止 | 2 | 15 | 月 | P 市老ク連第3回理事会 | 近江やすらぎハウス |

| 月 | 日 | 曜 | 行事内容等 | 場所 | 変更内容 | 月 | 日 | 曜 | 行事内容等 | 場所 |
|----|----|----------|-----------------|-----------|-----------------|---|----|---|------------------|-----------|
| 6 | 11 | 木 | 広報委員会(校正) | 愛らんど | | 2 | 16 | 火 | A 広報委員会(割付) | 愛らんど |
| | 25 | 木 | 広報年輪発行 | 伊吹地域全世帯 | | | 18 | 木 | AP 冬季 GB 大会(開会式) | すばーくいぶき |
| 7 | 9 | 木 | P 寿ふれあい広場 | ジョイ伊吹 | 延期 | | 19 | 金 | // (閉会式) | // |
| 8 | 24 | 月 | P 市老ク連第2回理事会 | 近江やすらぎハウス | | | 25 | 木 | AP 県高齢者支援活動研修会 | 県老ク連(草津市) |
| | 24 | 月 | P 市スポーツ大会競技説明会 | // | | 3 | 2 | 火 | P スマイルボウリング大会 | 山麓総合体育館 |
| 9 | 10 | 木 | A 保体部会競技説明会 | 愛らんど | | | 5 | 金 | A 広報委員会(校正) | 愛らんど |
| | 17 | 木 | AP 市高齢者スポーツ大会 | 長浜ドーム | | | 16 | 火 | A 企画部会 | // |
| | 25 | 金 | A 研修部会 | 愛らんど | | | 25 | 木 | 広報発行 | 伊吹地域全世帯 |
| | 29 | 火 | AP 老ク連県外研修(1日目) | 信州方面 | 延期(1泊2日・日帰り再検討) | | 26 | 金 | A 伊吹老ク連会計監査 | 愛らんど |
| 30 | 水 | // (2日目) | | | | | | | | |
| 10 | 21 | 水 | AP 第51回囲碁大会 | ジョイ伊吹 | | | | | | |
| | 23 | 金 | A 友愛訪問品配布 | 愛らんど | | | | | | |
| | 27 | 火 | A 保体部会 競技説明会 | // | | | | | | |

※Aは午前、Pは午後、APは終日を示す。

新型コロナウイルスの影響により上半期の事業は一部中止、延期となりました。下半期の事業は計画どおり実施したいと思いますが、状況では中止になる場合があります。

米原市高齢者スポーツ大会出場チームは抽選の結果次の通り決まりました。

| | |
|----------|---------------------|
| グラウンドゴルフ | 伊吹、伊吹、上野、春照、杉澤、杉澤 |
| ペタンク男子 | 大久保、伊吹、伊吹、杉澤、村木、大清水 |
| ペタンク女子 | 伊吹、伊吹、高番、杉澤、村木、大清水 |
| ワナゲ男子 | 大久保、伊吹、伊吹、春照、高番、杉澤 |
| ワナゲ女子 | 伊吹、伊吹、上野、春照、高番、杉澤 |



老人クラブアンケートの結果概要についてお知らせします

1 アンケートについて

高齢者の皆さんが様々な活動を通じて楽しく生きがいをもって暮らしていただくよう、今後の施策を考えるため、令和元年度の10月より、市が把握している単位老人クラブに向けて、アンケートを実施しました。協力して下さいましたすべての方に、改めてお礼を申し上げます。

○回答数 3,028 件 ○回答クラブ数 58 クラブ (内訳 伊吹 10、山東 21、近江 12、米原 15)

2 アンケートの中で注目する結果

- ①会員の高齢化が進んでいる。
- ②1人暮らしや高齢者世帯の会員が多い。
- ③会員の半数以上が活動に参加されており、会員の4分の1の人は参加されていない。
- ④老人クラブの活動としては社会奉仕活動が多い。
- ⑤社会奉仕活動に負担を感じる方は報酬があっても参加しない方が半数を占める。
- ⑥社会奉仕活動の報酬に対して年代間での違いがある。
- ⑦元気に暮らしていくためには「人との交流」「趣味活動」「運動」が必要と回答された方が多い。

3 結果から見たこと

- ・会員の高齢化が進み、1人暮らしや高齢者世帯が多くなっているため、この背景に応じた活動が今後必要となる。
 - ・老人クラブ活動には会員の半数が参加され、地域の社会奉仕活動に対する役割は大きい。
 - ・社会奉仕活動を負担とする人は、報酬だけでなく参加していただくための取組を検討していく必要がある。
 - ・老人クラブ活動に参加したい人は多いが、4分の1の人は参加したくないと回答されている。
- 今後、活動に「人との交流」「趣味活動」「運動」を取り入れることで、積極的な参加につながると思われる。

今後、市でも、今回の結果を基にして…老人クラブへの支援等、現行の制度改正に向けて検討を行います！
(詳しくは 米原市役所 暮らし支援課 0749-58-8110まで)

伊吹老ク連会長退任挨拶



伊吹親和会 会長

中村 隆法

昨年未発生した新型コロナウイルスにより日本でも緊急事態宣言が、発令され「外出自粛・防げ三蜜」の状況になってしまいました。私たちの行動もかなり制限を受けています。ところが、大自然は、いつもと変わらず、山々は新緑になり、心地よい風が頬を撫でていきます。会員の皆様方には、コロナ禍にも関わらず、益々ご健勝のことと、お慶び申し上げます。

私事ですが、三月末をもちまして、伊吹老ク連の会長を退任させて頂きました。会長職が二年、副会長職が二年、保体部副部長職が一年の五年間にわたり、会員の皆様方には大変お世話になり、ありがとうございました。

五年間を振り返ってみますと、滋賀県老ク連関係では、会員減少に歯止めがかからないこと、米原市老ク連関係では、昨年度の山老ク連さんの脱退、二年前の米原老ク連さんの脱退とこちらも県老ク連同様会員数が減っています。

伊吹老ク連でも、曲谷さん、甲津原さん、寺林・上平寺さん、下板並さん、小泉さん、弥高さんが脱退され五年前と比べ六単クも減り十単クになってしまいました。

また、老ク連の常任理事さんも二名欠員のままです。この五年間、減少・減少のマイナス続きで終わってしまいました。大変残念でした。でも、よかったこともありました。幸い健康にも恵まれ、老ク連の色々な行事に企画・参加できたことや、あちこちで、お友達がたくさんできたことです。私にとっては大切な財産になりました。

老人会は、人と人を結びつける人生最後の組織です。楽しい老人会を目指しましょう。

今後は、伊吹親和会の会長として、伊吹老ク連を応援し、「健康・友愛・奉仕」の三本柱のもと、益々のご発展を祈念し、退任の挨拶といたします。

常任理事就任にあたって



研修部会 副部長

伊夫伎 博夫

自分に出来る事

この度、伊吹老人クラブ連合会の常任理事の指名を受け、研修部会の副部長をさせて頂きたくこととなりました。

伊吹親和会に入会しての三年間では、大した経験もないまま当連合会の常任理事をお願いしたものの、この組織の中で自分が出来るかも見えていません。

特に、本年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止が最優先とされる世相の真つ最中から始まりました。その中で、各種の例年実施されてきた行事が軒並み「中止」や「延期」とされ、会議すらままならない状態です。

当連合会の行事も開催自粛や延期とならざるを得ない状況で、感染拡大防止対策の効果を等を見ながら年度内の行事の開催可否や開催時期を考慮していかなければと思うところです。

地域の活動を支えてこられた各種団体も少子高齢化や過

疎化の進行などで、地域内での人との交流や学習・体験の場が少なくなっている中で、諸先輩の方々の熱意と奮闘のおかげで最も活発に活動を続けてこられたのが老人クラブだと思っています。

この活動の流れが続くように、自分に出来ることを考えながら先輩役員のご指導も仰ぎつつ、多くの会員の皆さんに参加していただけるような内容に取り組んでいきたいと思えます。

冒頭に申し上げましたとおり、老人クラブ連合会の内容や行事の準備等のことも深くは理解していませんので、まずは廻りの諸先輩や会員の皆さんのご支援とご指導をいただきながら取り組んでいきたいと考えています。

地域交流の輪が広がり続けられるように、皆様の特段のご協力をお願いいたします。

編集後記

初夏の候、会員の皆様には、ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。五月の風とは裏はらに日本全国いや世界中コロナウイルスが蔓延し、大変不安な生活をおくつてきました。早く終息することを願わずにはおられません。

私この度、副会長をさせて頂くことになりました。微力では御座いますが会長様初め役員様会員様方のご指導御協力賜りながら頑張つていきたいと思ひますので宜しくお願ひ申し上げます。

このような事情ですでのいろいろな事業計画も変更になることもありますので尚いっそうのご支援ご協力の程宜しくお願ひ申し上げます。編纂の終わりにあたり各字老人クラブ会長様方のご協力とご理解のもとで次世代に継続する伊吹老人クラブ連合会の益々の発展と会員お一人お一人のご健勝を祈念申し上げ結びといたします。

広報編集委員長

川瀬 四郎

